

特集

私たちの主張を伝えます！

—令和4年度松浦市子ども議会—



**住み続けたいを実感できる
まちづくりをテーマに**

8月3日、市議会議場において「子ども議会」を開催しました。

この議会は、中学生の皆さんに子ども議員として、「住み続けたいを実感できるまちづくり」をテーマに松浦市政を考えてもらう機会としており、10年、20年後の松浦市を担う中学生の柔軟な発想から生まれる考えを表現する場があります。

今回の経験をまちづくりへの参画のきっかけにし、今後も市政に関心を持って、自らが考えた意見を基に行動できる人に育っていただければと思います。

**市議会と同じ形で行われた
内容の一部を紹介します**

子ども議会では、議事の進行を務める議長や、副議長が中学生議員の中から選ばれ、通常の市議会と同じ様に進行されていきます。

当日は、19人の議員が参加し、総合学習などで学んだことを意見や提案、質問として発言し、市長をはじめとする各担当課長からの答弁を受けました。

今回の特集では、議会内容の一部を紹介いたします。
松浦市の将来を担う子どもたちの活力あふれる声をぜひご一読ください。

(以下敬称略)

松浦市の人口減少について



今福中学校
徳永 莉央、田中 伽奈、永戸 優妃

松浦市の多くの町や地域で人口が減っており、現状のままだと約20年後には松浦市の人口は1万人になると聞きました。人口減少を止めるには、松浦市の魅力を伝え、そこに住んでもらえたらいいのではないかと考えます。

そこで、人口減少による松浦市の影響、Uターン、Uターン者を増やす取組や松浦市のPR活動についての質問をします。

Q 松浦市のUターン、Uターン者を増やす取組はありますか。あればその内容も教えてください。

A 松浦市へ移住を検討されている人に対して、「移住コーディネート」という移住を支援する専門人材を配置して、松浦市における「仕事」や「住まい」、「子育て支援」など、松浦市の魅力をPRすることに加えて、移住希望者の新生活実現のためのお手伝いをしています。

また、都市部へ出向き、移住相談会を実施したり、オンラインでの移住相談を行っています。

そのほか、Uターン、Uターンされた人の新しい生活を応援するための制度を設けるなど、さまざまな観点から、移住者に優しい、移住を希望される人に松浦市を選んでいただけるような取組を行っています。

Q 松浦市の人口が減少するとどのような影響がありますか。

A 人口減少が進むと、働く人が減少。そのことよってお店の売上が減ります。

高齢化が進むことで、医療費や介護保険料が多くなり、それを負担する働く世代の負担増加などが考えられます。

加えて、地域の担い手が減少することで、地域の清掃や草刈り、地域行事が人手不足でできないなどさまざまな弊害が起こることが推測されています。

人が減らない（人が増える）ように、移住・定住の取組と併せて、仮に人口が減少した社会においても、持続的に安心して住める地域であるために、10年後、20年後の先を見据えて、小学校区単位によるまちづくり（地域運営組織の立上げ）を目指し、対話による新しい仕組みづくりを進めてます。

Q 松浦市のマスコットキャラクター「松浦松之介」のほかに、松浦の特産品をテーマにしたマスコットキャラクターを作れないかと思いい、今福中学校生徒で2つのキャラクターを考えました。PRに活用いただけませんか。

A 松浦を訪れるきっかけとなるマスコットキャラクターの存在は重要であると認識しています。

先口、松浦鉄道のキャラクターである鉄道むすめ「西浦ありさ」さんを「松浦アジフライ大使」に任命しました。

また、アジフライマップのキャラクターたちも、市内の松浦鉄道各駅にパネルになって、松浦を訪れる観光客を出迎えています。

キャラクターを使った観光客の誘致は重要と考えますので、今後も取り組んでまいります。

ご提案があったキャラクターについても前向きに検討してまいります。



生徒の投票で選ばれた
マメア君（左）とまつあじくん（右）

松浦市の地域経済活性化策に つなぐ



調川中学校
吉岡 玲奈、小野 陽太、松本 颯斗

「アジフライの聖地」宣言以来、週末はアジフライを食べるために県外から出かけて来られる観光客も多く見られるようになりました。

そこで、「アジフライの聖地」が広く浸透した今、次の活性化策はどのように考えておられるか教えてください。

また、本校が立ち上げている、松浦市をPRする会社であるTMエンタープライズが考えている次の一手について、聞いていただけると嬉しいです。

Q 「アジフライの聖地」宣言の次に松浦市が考えておられる活性化策を教えてください。

A 「アジフライの聖地 松浦」の取組については今後も引き続き取り組んで、松浦と言えば「アジフライ」と認知されるようになるまでさらに磨きをかけてまいります。

加えて、水中遺跡では国内唯一の国史跡である鷹島神崎遺跡の活用を考えております。松浦市にしかない観光資源である「鷹島海底遺跡」を活用した新たな観光コンテンツを造成する取組を計画しており、松浦市の交流人口拡大を図ってまいりたいと考えているところです。

Q TMエンタープライズでは、アジフライの聖地をさらに盛り上げるために、アジフライのソースの開発を考えています。今後、国内主要都市、さらに海外進出を考えておられることを受けて、各地の食文化に合わせたソースの提供ができるように研究を進めます。

最終的にはアジフライ専用ソースとしてパッケージデザインまで含めて松浦市をアピールするものを開発

していきたいと考えています。
この方策について、考えをお聞かせください。

A 「アジフライの聖地」宣言とともに制定した「松浦アジフライ憲章」には、一番最後に、「私たちは、松浦アジフライの振興を通して世界平和を願います」とあり、「アジフライを日本中に、世界中に」と考えておりますので、国内はもとより海外展開を視野に入れた取組を検討しております。

TMエンタープライズの皆さんが考えられているソースの開発、大変興味深く伺いました。ぜひ実現化に向けて取り組んでいただきたいと思います。市でも昨年度インバウンドを想定したメニュー開発に取り組みました。その際に行った外国人モニターへのアンケート結果の提供など、お力になれる部分がありましたら、ぜひ協力させていただきたいと考えます。

Q 松浦市の魅力発信を映画という手段にしてはどうかと考える理由は、
・映画を作るにあたって松浦市外から多くのスタッフを受け入れること

で各地に松浦の特産品を紹介することができるとか
・松浦市を舞台とすることで、松浦の自然の美しさをアピールすることができる
・映画制作には、地元の人たちの協力が必要であることから、松浦市民が一体となり松浦に住む人が松浦の良さを改めて確認することができるなどの効果が期待できるからです。
いかがでしょうか。

A ご提案のとおり、映画を制作することさまざまな効果が生まれる。このことは大変すばらしいと考えます。

映画を制作するためには、脚本を誰が書くのか、資金をどうやって集めるか、費用対効果をクリアするためにはどうしたらよいのかなど、まず、どのような課題があるのかを考えていただいで、実現に向けて検討していただきたいと思います。

市のホームページでも「青の大学」という松浦市の魅力を伝える映像コンテンツを配信しています。

松浦の良さを映像化するにあたり、皆さんがこれから映像制作の技術を学び、松浦の良さを発信していくような皆さんの取組に期待しています。

福島町の人口減少について



福島中学校
吉田 早希、志水 巧斗、原田 絢芽

福島中学校で福島に住み続けたいかとアンケートを実施したところ、82%が住み続けたいと回答しました。

その理由は、福島内の日用品などを買うことができるお店が少なく、不便であること。また、福島町内で行われていた祭りなどのイベントがなくなり、地域の人との交流が減ることやお店の収入源となるだろつ観光客の人が来なくなったからであると考えます。

そこで、次の質問をします。

Q 福島町の公共トイレは清掃が行き届いておらず不衛生だったり水が流れないなど壊れている箇所があったりし、住みづらくなっているのではないかと考えます。観光客の人も、使用することが多く、今の状態では不便だと思えます。そのような問題は今後どのようにしていきますか。

A 公共トイレについては、業者に管理と清掃を委託し、掃除を行っていますが、清掃後に利用された人が不適切な使用をすることにより、不衛生な状況を作り出し、利用しづらくなっているものと思われれます。故障や不具合のある箇所については、連絡を頂いた後できるだけ早期に修理を行っており、今後も使用できなかったということが無いように管理を行ってまいります。

福島に来て、福島の美しい景色や自然を堪能し心が豊かに満たされた後に、気持ちよく使用できるように管理すると同時に、利用者へのマナー周知の一つの方法として、児童生徒の皆さんにマナーポスターなどを作成いただき、トイレに掲示するなどの啓発活動ができればと考えていますので、ご協力いただければと思います。

Q 福島町は空き家が多いです。空き家はそのままにしておくと、崩壊する危険性や、蜂などの害虫が巣をつくるなどの危険性が出てきます。

福島町内の空き家の管理や使用についてどのようにお考えですか。回答をお願いします。

A 個人の財産である以上、市が勝手に取り壊したり使用したりすることはできません。

そのため、老朽化し危険な空き家の解体を行う人に対して、解体費用の一部を補助したり、「松浦市空き家バンク」に登録された物件の内装、屋根および外壁などの改修費を補助しています。

福島町では、これらの補助金を活用し、平成27年度から令和3年度までに4戸の空き家が解体され、平成29年度から令和3年度までに登録された7戸のうち、6戸が賃貸や売買により有効活用されています。

空き家対策につきましては、単に危険な空き家を解体するだけではなく、有効活用していくことが地域にとって効果的であると考えています。

Q 遠くまで買い物に行けない人が、今の状況では不便なため、住み続ける人が少ないと考えられます。空き家を活用して食料品や日用品などを購入できるお店をつくることのできないでしょうか。

また、お店などができた際には、生徒会でお客さんを増やすための工夫や、学習発表会でお店のPRをするなどサポートをしていきたいです。

A 旧Aコープ横のコインランドリー跡地を活用した、農産物直売所「うるつる福島」が、今年の6月18日にオープンしました。

若者や観光客も訪れてくれるような直売所にしていきたくとも話されていきましたので、中学生の皆さんがお店を訪ねて、皆さんの思いを伝えていただければ、喜ばれると思いますし、今後の展開のヒントにもなると思います。

住み続けたいと思えるまちにしていくためには、「自分たちも何かしたい」「心援したい」という気持ちがあっても大切です。

市としても、地域住民が一体となって取り組める環境づくりについて、引き続き支援していききたいと考えております。

松浦市内における祭りへの中学生の参画について



志佐中学校
中原 亜郁佳、川原 健輔、阿部 優亜

多くの人が「この町に住み続けたい」と思うためには、「この町の人たちとずっと一緒にいたい」と感じられるような、人と人とのつながりが必要だと考えました。

そこで志佐中学校では、祭りやイベントの開催に中学生が参画できないかと考えました。

今回は、現在松浦市で行われている祭りやイベントについて質問いたします。

また、中学生が参画した祭りについて提案いたします。

Q 松浦市にあるさまざまな祭りの中で、市が企画・運営をしている祭りの内容や規模、開催地域を教えてください。

A 松浦市内の祭りは市が企画・運営を行う主体ではなく、それぞれの祭りは、地域や各種団体が運営協議会などの組織を作り主催しております。

ここでは、市が補助金を交付している祭りについて、令和元年度の実績の一部をお答えいたします。

○松浦水軍まつり（志佐町）

【主催】まつり実行委員会

【来場者数】約3万人

【内容】ステージイベント、武者行列、山車パレード、市民総踊り、海産物・加工品の販売、抽選会など

○鷹島モンゴル祭り（鷹島町）

【主催】鷹島モンゴル祭り実行委員会

【来場者数】4,500人

【内容】鷹島町の特産品の即売会、モンゴル料理の出店、マグロ解体ショー、鷹島元寇太鼓、馬頭琴演奏、大抽選会など

○福島ふるさと祭り（福島町）

【主催】福島町ふるさと祭り懇話会

【来場者数】4,000人

【内容】

クルマエビ即売会、太鼓、ステージイベント、抽選会など

それ以外にも市内では、各地域に根差した祭りや、特産品を販売する産業祭りなどが開催されております。

Q 挙げていただいた祭りの中で、松浦市民間のつながりを強めることを主なねらいとした祭りがあれば、詳しく教えてください。

A 先ほど挙げた祭りには、商店街の皆さん、農業・漁業の団体や地域の婦人会の皆さんが、特産品や加工品の販売を行うなど、それぞれの祭りに参画して盛り上げていただいています。そこで、買い物にいられた市民の皆さんとの交流が生まれ、また、祭りを企画運営する段階でも、参加者の間で異なる業種間の交流が生まれます。祭りを通して、特定の層ではなく幅広く市民の皆さんの繋がりが強くなるのではないかと考えます。

Q 松浦市内の中学生が松浦市と協働し、参画できる祭りを開催を提案します。例は次のとおりです。

- ・松浦の特産品を使ったメニューを中学生が考案、地域の協力を得て販売する。
- ・各中学校の生徒会や文化部と一緒に、なつて出店やステージ発表の企画を練ったり、出し物や装飾をしたりする
- ・市内各地域を持ち回りで会場にして、それぞれの地域の良さに気づいてもらう

A ご提案の市内の中学生が松浦市と協働し、参画できる祭りのアイデアは、大変頼もしく、ぜひ何らかの形で参画していただきたいと考えます。

ご提案の新しい形での祭りの開催は、すぐに開催することは難しいかもしれませんが、中学生が参画する方法として、まずは各地域の祭りに参画することから始められてはいかがでしょうかと思います。

先ほども申しましたが、松浦水軍まつり、福島ふるさと祭り、鷹島モンゴル祭りなどの祭りに、各中学校の生徒会と一緒に参画していただくことは、皆さんのねらいでもある、年代の異なるあらゆる人とのつながりを強くすることにつながるのではないかと考えますので、ぜひ実現に向けて検討していただきたいと思います。

御厨町の整備について



御厨中学校
黒澤 和真、濱田 真衣、松田 莉々沙

これからの御厨町の発展のために、御厨町の整備について次の項目で質問します。

- ・御厨中学校内のW i i F i環境整備について
- ・御厨中学校の雨漏りについて
- ・松浦港（御厨地区）埋立地整備の進捗と設備について

Q 1人1台整備いただいているタブレット端末ですが、月に5ギガというデータ制限があるため、十分に活用できていません。

そのため、学校にW i i F iを設置していただければと考えています。設置のための費用と期間を教えてください。

A 学校にW i i F iを新たに設置する場合は費用と期間については、校内のLAN配線や電源等の工事、ルーターの購入等の費用を概算で見積ると約6, 500万円、また整備に要する期間は約半年が必要になるのではないかと見込んでおります。

しかし、W i i F i方式を選択した県内の市町では、一斉に接続するため通信速度が遅くなり、授業に支障をきたしているところもあるようです。

Q 御厨中学校は雨漏りが多く危険なため、雨漏りを改善していただきたいと思っています。工事費と期間を教えてください。

A 雨漏りの状況については、学校から昨年夏の豪雨やそれを担当する職員で対処できる範囲を早く修繕するようにしております。

雨漏り対策工事については、工費が約1, 600万円、工期が5、6か月かかると見込んでおります。

Q 松浦港（御厨地区）埋立地の完成時期と進捗状況について教えてください。

遊具の有無など、どのような設備があるのかを教えてください。

A 松浦港（御厨地区）埋立地のうちの大部分に当たる約3、4ヘクタールについては、県事業により緑地整備が進められており、今年度は本工事（側溝や集水桝等の排水工と客土を敷きならす工事）に着手される予定です。

現時点においては、令和6年度に完成予定です。

昨年10月の県事業説明会では、地元の方から芝生と遊歩道による整備をお願いしたいとの意見が出され、公園内には芝生広場、遊歩道、東屋、ベンチ、トイレが整備される予定です。

Q 松浦港（御厨地区）埋立地について御厨中学校を代表して生徒会から要望を2点お伝えいたします。

・海が近いので、人やボールが落ちないようにフェンスを立ててほしい

・テニスコートなどの運動ができるスペースが欲しい

ボールを使用できるスペースがあれば、子どもたちの活気あふれる元気なまちになると思います。

A フェンスにつきましては、人が落ちないように転落防止柵を設置する予定です。

公園内の芝生広場は、災害時の一時的避難場所や緊急時のヘリポートとして利用する予定であるため、あらたにテニスコートの整備を進めることはできませんが、周りにはジョギングコースもできますので、部活動でも活用していただきたいと思えます。

遊具の設置につきましては、県事業では整備できないため、市で設置する予定です。

青島の存続と活性化について



青島中学校
上場 真凧斗、川下 和楓、田口 彩人
(当日欠席) (当日欠席)

青島は漁業で生活している人が多いですが、後継者不足、高齢化による働き手の減少、女性の職場不足などで、青島では年々人口が減っています。以前は民泊や釣り客で活気がありましたが、ここ数年はコロナウイルスの影響で、民泊も釣り客もほとんどおらず、活気がなくなっています。島内常駐のお医者さんが、いなくなり、高齢者は不安を感じています。このままでは、将来、青島が無人口化するのではないかと心配です。

Q 漁業後継者の募集について松浦市では、どのような方法で募集をされていますか。

募集を見て集まった人数と、実際に漁業関係の仕事を始められた人数を教えてください。

A 市では「全国漁業就業確保育成センター」のホームページに松浦市の新規漁業就業支援制度を掲載していただいたり、同センターが開催する漁業就業支援フェアに参加するなどして募集しており、

これまでに1人の方が就業されています。更に本年度は2人の方が漁業への就業を目指し、8月より研修を開始されています。

現在、島内に医師が駐在するのは、週2日の昼間のみです。残りの5日間と夜間については医師不在です。そのため、私たち小中学生は、フェリーが欠航した場合は、けがをするといけないので、部活動ができません。また、高齢者の中には医師不在の夜間や週末は一人暮らしでは不安なので、家族の住む島外へ行く人もいます。

昨年年度松浦中央病院ができたこと

で、そこに緊急搬送の患者さんを運べるようになったと伺いましたが、実際に市内だと、連絡をしてから救急車が到着するまで平均どのくらいの時間がかかりますか。

A 救急の要請から現場到着までの平均時間については、約8分になります。

なお、令和2年中の国統計による全国の現場到着までの平均時間は約9分となっています。

また、救急の要請から松浦中央病院までの搬送時間については、平均約34分となっています。

Q SNSで広く松浦市を知ってもらうために青島中学校から3つの提案をします。

1つ目は、人の充実です。市のホームページでは、更新がされていないページもあるようでした。

こまめに情報を発信するために、専門の担当者を雇ってリアルタイムで情報発信をしていくことが大切だと思います。

また、漁業の魅力を発信するために、現代的な漁業について学びながら遊べるアプリを作ってみてはいかがでしょうか。新しいことを始めるた

めにも専門の知識を持った人を雇うことは大切だと思います。

2つ目は情報の集約・発信です。例えば、青島では、青島に伝わる昔話のアニメーション化やキーホルダーの販売、観光スポットを紹介した動画の制作など素晴らしい活動がされています。

そのような活動をホームページ上に集約してアピールしたり、アフィリエイトグッズをオンラインで販売したりするのいいと思います。

3つ目は、市全体での観光客の呼び込みです。

ホームページ上で宿泊施設や食事が紹介されていますが、市外から観光に来る人は、観光するのにどれくらいの時間がかかるのかわからないと思います。そこで、体験・宿泊・食事の3つを自玉に、モデルツアーをいくつか紹介してはいかがでしょうか。

市内での日帰りや週末ツアーを企画して、遠くからの集客ではなく、気軽に来ていただけるように、近隣県からの観光客を呼び込むと良いと思います。また、そこに漁業体験ツアーを企画すれば、漁業を始めたいと思っている人が気軽に参加できると思います。

このツアーやワーケーションが実現すれば、たくさんの方が呼び込めると思います。住んでくれる人もいれるかもしれません。

そのときに安心して安全に来ていただけるようにもう一度青島に住んでいただけるお医者さんについて考えていただけないでしょうか。

A 提案いただいた、遊びながら学べるアプリやゲームを作るなど、興味や関心を持っていただくような魅力のある情報をタイミングを逃さず発信していくことは大事なことだと認識しております。

そのため、SNSでの発信力を高めるために松浦市インスタグラム発信戦略マニュアルを作成することとしており、このマニュアルを市内の飲食店や観光事業者へ配布し、それぞれのSNSでの発信に活用してもらうと同時に職員へも配布することで、職員全体の情報発信スキル向上を図っていきたいと考えております。

次に情報の集約・発信についてですが、観光・物産の情報は、まつっから観光物産協会のホームページに掲載されており、旬な特産品の情報、イベント情報、見どころ、観光スポットの動画、アジフライマップをはじめ

めとする各種パンフレットを見ることとができ、市内外へ向け広く市の情報を発信しています。

アジフライグッズのオンラインでの販売につきましても、交流人口の拡大を狙い、松浦に来ないと買えない松浦限定販売という戦略を取っております。ぜひ多くの人に松浦に来ていただいて、松浦でアジフライグッズを購入いただければと考えています。

松浦市全体での観光客の呼び込みにつきましても、モデルコースの紹介や移住・定住につながるツアーなどは大変よいアイデアだと思っております。モニターツアーの検証と合わせて検討してまいります。

また、指摘のあった青島におけるさまざまな課題については、8月22日に青島地区で青島まちづくり会議を開催することとしておりますので、地域の皆さんと意見交換を行い、観光客や移住者なども含め、青島の人々が安心して過ごすごとができるような方策を地域の皆さんと一緒に検討していきたいと考えています。

鷹島町を中心とした松浦市の活性化について



鷹島中学校
木谷 ^{みはな}心花、大石 朋佳、青木 江葉
(当日欠席)

鷹島町には、いくつもの観光施設がありますが、それほど多くの観光客が来ていないと感じています。

鷹島町であまり活用されていない観光地などを活用することで、今よりも多くの観光客が見込まれ、鷹島町の活性化に繋がると考えています。

そこで、次の質問をします。

Q 鷹島町は、とても綺麗な自然に囲まれています。その自然を活かして、釣り堀やマリンスポーツ、またキャンプ場の設置など、自然と触れ合える観光地として広く発信していきたいのではないかと考えていますが、松浦市として何か具体的な取組がありますか。

A 昨年モンゴル村一角のキャンプ場で、ニーズ調査のためのモニターキャンプを実施しました。その結果、景観が良い、また来たいなどの好意的なご意見を多くいただきました。

その結果も踏まえて、現在市としては、無料開放中の鷹島モンゴル村を利活用していただく民間事業者を募集しているところです。

Q 鷹島町の特産品であるスイートスプリングを浮かべた足湯や、動物と一緒に入れる足湯など、ユニークなものにすることで、全国的にアピールができると考えました。モンゴル村の温泉施設の活用方法の一つとして、検討して頂けないでしょうか。

また、今後モンゴル村でイベントなどが開催される場合、中学生による

元寇太鼓の演奏をさせていただけないでしょうか。

A モンゴル村については、現在は無料で開放し、週末は、福岡都市圏などから観光やドライブ、バイクでのツーリングポイントとして、景観を楽しむ人が多く来場されています。

モンゴル村については、現在、民間企業からの事業提案を募集するなどして、今後の利活用についての検討を行っております。

モンゴル村でのイベントについては、ぜひ中学生に元寇太鼓を演奏する機会を与えていただけるよう鷹島モンゴル祭り実行委員会にお知らせしたいと思います。

Q 鷹島町には、全国で唯一の海中ダムがあり、ダム湖百選に選ばれています。ダムの周囲には遊歩道が整備されており、初夏になると蛭が多く飛び交うなど、観光地として確立できるのではないかと考えました。本校では、総合的な学習の時間で、どのように鷹島をPRするかを学習しています。今年も、修学旅行の際に佐世保でPRを行いました。今後鷹島海中ダムでイベントな

どが開催される場合、鷹島のPRを含めた特産品販売の補助などをさせてもらうことはできないでしょうか。

A ダム湖周辺には、展望所や遊歩道、公園も整備され、せせらぎ水路にはホタルが飛び交うなど地域住民にとっては憩いの場、また市外の人もダムカードを目的に訪れるスポットとなっています。

鷹島地域の観光施策を考えていく中で、他の観光スポットと併せて広くPRしていきたいと思えます。

しかしながら、この鷹島海中ダムに特化したイベントを開催することは難しいかと思えます。ご提案の鷹島のPRを含めた特産品販売などのお手伝いは、中学生の地域への関わりとして非常にありがたいご提案でございますので、例えば、モンゴル祭りなどのイベントでそのような機会をいただけるよう鷹島モンゴル祭り実行委員会にお伝えしたいと思います。

ふるさと松浦のまちづくりを ともに考える決議



鷹島中学校
みはな
木谷心花議員

このたび、私たちは松浦市子ども議会に参加し改めて自分たちが住んでいる地域や松浦市全体のことを考える機会を得ました。

質問は各校それぞれが学級や学校での話し合いを深め決めた内容で公園や校舎、医療サービスなどの社会資本の整備から雇用確保や観光開発、人口減少対策などの地域おこしなど、広い範囲に及びました。

どれも私たちの生活に密着していることばかりで、改めて松浦市の課題とともに、魅力について深く知ることができました。

松浦市は自然が豊かで、歴史や伝統のある素晴らしい私たちのふるさとです。

私たちは今回の貴重な体験を生かし、将来のまちづくりの担い手として、これからのまちづくりについて仲間とともに考え、皆さまとともに松浦を創るために取り組んでいきたいと思えます。

令和4年8月3日

松浦市子ども議会

子ども議会を終えて



鷹島中学校

坂本 ひかり 議長

今回の子ども議会で議長という仕事をして、議長という立場の緊張感や、大変さ、難しさを感じることができました。

議長席に座り、発言するというのは思った以上に緊張し、何度か言い間違えてしまいました。がゆっくと大きな声で、見ている人、聞いている人に伝わるように心がけ、議長という仕事を最後までやり遂げることができました。

各中学校の多様な考えや松浦市が取り組んでいること、議題について学ぶことができ、自分の中に新たな考えや思いを持つことができました。

これからもふるさと松浦への思いを深め、自分たちができることを考えていきたいです。松浦市がさらに多くの人に愛されるまちになることを願っています。

「住み続けたいを実感できるまちづくり」をテーマに、各中学校で松浦市やそれぞれの学区の課題をしっかりと研究して、子ども議会に臨んでくれたことが伝わりました。

市が直面している課題について、単なる質問に留まらず、自分たちができることやキャラクターデザイン等々、中学生の視点で堂々と政策提言を繰り広げてくれました。中には体調不良で急遽欠席した仲間の分を含め3人分の質問を一人でこなす議員もいて、未来を担う子どもたちのたくましさを実感するとともに、一人ひとりが真剣に松浦の未来を考えてくれていたことをとてもうれしく思います。今回いただいた貴重な意見や提案を、これからのまちづくりに活かしてまいります。



松浦市

友田 吉泰 市長

今回の子ども議会は、4月から準備に入っていたいただいた学校もあり、これまで長い時間をかけて準備をしていただきました。

子ども議員の皆さんには、住み続けたいを実感できる松浦にするために一生懸命に考え、堂々とした態度で質問や提言をされており、見ていても頼もしく感じました。

皆さんからいただいた貴重な意見をしっかり受け止め、これからのまちづくりに活かしてまいります。松浦市や日本の未来をつくるのは皆さんです。今後も世界の出来事に関心を持ち、自分にできることに取り組みんでほしいと思います。



松浦市教育委員会

黒川 政信 教育長